事例No.	3063
公表年度	R6
団体の属性	中核市
団体名	兵庫県尼崎市

事例区分	DX

タグ	・（行政改革）業務の効率化 ・ICT ・AI

事例種類	DX

事例内容・タイトル

業務の概況と課題（インフラ管理（道路））

出典

持続可能な地方行財政のあり方に関する研究会（第4回）①

業務の概況と課題（インフラ管理（道路））

③－1　損傷箇所の確認（道路）

○　道路の損傷箇所を発見するためのパトロールについて、小規模団体では、巡回に係る人員が不足している。住民からの電話等による通報もあるが、聴取内容の記録に時間を要している。
○　民間配送車両や住民投稿アプリの活用を行っている団体もあるが、小規模団体における導入には課題（山間部では車両の運行頻度が少ない、導入費用が高額）がある。

【業務の概況】 ・道路の巡回（パトロール）を行い、目視により損傷箇所を確認。事業者が修繕を実施。
（一般行政職員、現業職員、会計年度任用職員が実施するほか、事業者に委託している団体もある）
・住民からの電話等により損傷箇所を把握し、通報内容を記録した上で、現場確認等を実施。

【執行上の課題】 ・巡回を行う人員が不足している。他の部署の職員が公用車を運転する機会に、道路の点検を依頼。（町村）
・住民からの通報内容（損傷箇所の位置、情報等）の聴取、記録等に時間を要している。（市）

【課題解決に向けた取組】

市民投稿アプリの活用（兵庫県尼崎市）

市民が投稿用アプリを用いて、道路や公園などの不具合を投稿することが可能。



（出典）尼崎市HP

民間の配送車両の活用（茨城県鹿嶋市）

・　民間企業が提供する製品配送車両とAI による道路損傷検知技術を活用した道路維持管理サービスを導入。
・　民間の配送車両が損傷箇所をAIにより探知・撮影し、市に報告。担当者が確認し、修繕の必要性を判断。



（出典）鹿嶋市HP

＜取組にあたっての課題等＞
・AIを活用した道路損傷検知について、導入費用が高額であることから難しい。（一般市）
・山間部においては、民間の配送車両の運行頻度が少なく、こうした車両の活用も困難。投稿アプリについても開発費用が課題。（町村）